

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



令和3年12月

海老名市立柏ヶ谷小学校

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。
- ・資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。理科で実験の結果や考察を文章で表現したり、算数で自分の考えを文章で表現したりする学習の成果が表れていると推察されます。
- 「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。国語の「話すこと・聞くこと」の学習はもとより、学校教育活動全般における言語活動の積み重ねが学習成果として表れていると考えられます。

◆課題のある点

- 「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるか」という問題では、県・全国の正答率を下回りました。また、文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題でも、県・全国の正答率を下回りました。このことから、文法の理解については課題があると考えられます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 教科書の文章に留まらず、新聞やインターネットの記事などを読む機会を増やすことで、主語と述語の適切な関係や修飾と被修飾の適切な関係について理解を深めていきます。
- 国語の「書くこと」の学習では、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係に着目して、自分で書いた文章を見直す活動を重ねることで、主語と述語の適切な関係や修飾と被修飾の適切な関係について理解を深めていきます。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができるかどうかをみる。
- ・伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解しているかどうかをみる。
- ・日常生活に必要な時刻を求めることができるかどうかをみる。
- ・基本図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。
- ・量の基本的な性質について理解しているかどうかをみる。
- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて記述できるかどうかをみる。
- ・棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・データを二つの観点から分類整理し、表に表したり読み取ったりすることができるかどうかをみる。
- ・帯グラフから、複数のデータについての項目の割合を比較し、データの特徴を捉え、表現することができるかどうかをみる。
- ・設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の意味について理解しているかどうかをみる。
- ・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。また、「棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるか」という問題では、県・全国の正答率を上回りました。与えられた情報を正確に読み取り、考えることができています。
- 自分の考えを文章で表現する記述式の問題における無解答率は、県・全国の正答率を下回りました。自分の考えを文章で表現しようとする学習意識の高さが伺えます。

◆課題のある点

- 「除法の意味について理解しているか」という問題や「基本図形の面積の求め方について理解しているか」という問題では、県・全国の正答率を下回りました。既習事項の定着に課題があると考えられます。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理する活動では、立式の根拠について意見を交流する活動を取り入れることで、除法の意味はもとより、加法、減法、乗法についての理解も深めていきます。
- さまざまな図形の面積の求め方を比較したり、求め方の根拠を確認したりする活動を通して、基本図形の面積の求め方について理解を深めていきます。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 話し合い活動では、友だちの話や意見をよく聞くことができます。また、自分と違う意見について考えることを楽しいと感じている児童が多くみられました。
- 道徳科の授業では、学級やグループでの話し合い活動で、自分の考えを深めている児童が県・全国より上回っており、道徳科の学習に対して積極的に取り組んでいることがわかります。

◆本校の課題と思われるところ

- 「土曜日や日曜日など休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という問いに「全くしない」と答えた児童の割合は全国平均を大きく上回りました。
- 学習の中で思考することや自分の意見を伝えることには積極的ですが、文章を読み解くことについては苦手と感じている児童が多いことがわかります。

生活について

◆本校のよかったところ

- 自分で決めたことをやり遂げようという気持ちや、物事に挑戦してみようという意識が高い児童が多くみられました。
- 現在も将来的にも「人の役に立ちたい」「人の役に立つ人になりたい」と思っている児童が多くみられました。

◆本校の課題と思われるところ

- 携帯電話、スマートフォンの使い方に関する家の人との約束がないまま使用しているケースが多く、全国平均より10%上回っています。また、普段からテレビゲームをする時間が長いことも伺えます。
- 新型コロナウイルスの感染拡大による休校中、家庭では規則正しい生活を送っていたようですが勉強については不安を感じた児童が全国平均より10%上回っていました。

今後の具体的な取組について

- 今後も、校内研究で培ってきた「ともに学びをたのしむ授業」を充実させ、各教科で言語活動を大切にしながら個の理解を深めていきます。
- ご家庭での理解・協力もお願いしながら、ICTを有効活用し、児童が興味関心をもって学習できるような家庭学習の充実を図っていきます。
- 児童の規範意識を高めていくような道徳教育の展開や言葉かけを大切にしていきます。

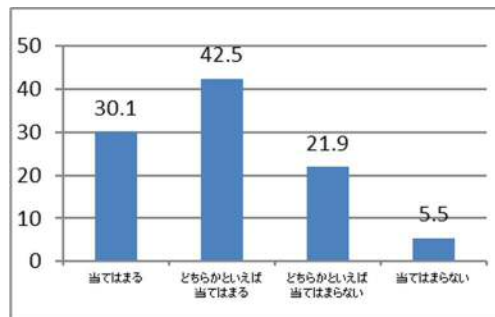
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1

子どもの言葉を受けとめ、考えや気持ちを自分の言葉で伝えられるように支えていきましょう。

自分の言葉で適切に表現する力、相手の言葉を正しく理解する力は、これからの社会を豊かに生きる力になります。自分の言葉で伝える経験を大切にしたいものです。

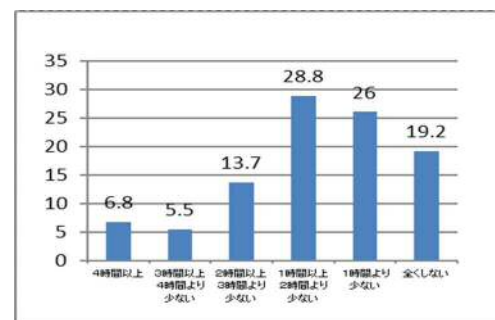


自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。

2

家庭学習を習慣化できるように取り組みましょう。

家庭学習は毎日続けることで習慣化されます。お子さんに合った学習時間や学習内容を設定し、取り組みましょう。

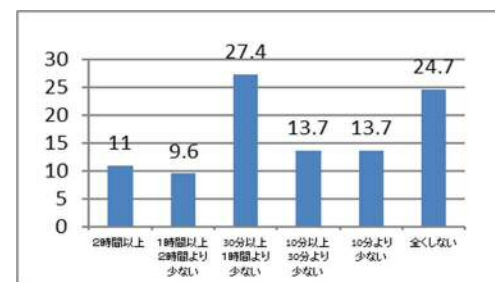


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

3

本を読む機会を大切にしましょう。

読書は「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」等の伸長に関連していると言われていいます。今後も、本に親しむ機会を大切にしましょう。

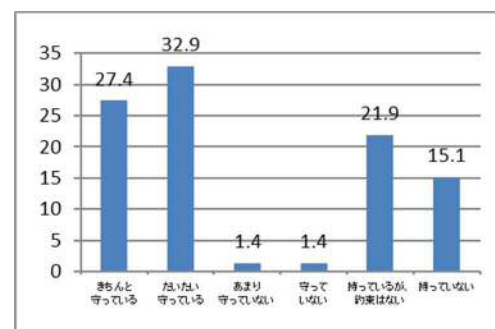


学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

4

ICT機器の使用について約束を確認し、守っていきましょう。

今後、ご家庭でもICT機器(パソコン・タブレット・スマートフォン等)を使用して学習したり、遊んだりする機会が増えてきます。使い方の約束を確認して、適切に使用できるようにご協力をお願いします。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

